

PAWEES の現状と展望 Activity and Prospect of PAWEES

○松野 裕*
Yutaka MATSUNO*

1. 背景

国際水田・水環境工学会(International Society of Paddy and Water Environment Engineering: 通称 PAWEES)は 2003 年の設立以来、農業農村工学会、韓国農業工学会、台湾農業工学会の支援のもと、水田稲作農業を核とした水環境分野における科学・技術振興を特にアジアにおいて推し進めてきた。PAWEES が母体となって発刊する国際誌 Paddy and Water Environment (PWE)は、2009 年にインパクトファクター (IF) の付くジャーナルとして SCIE (ISI データベース) に収録され、現在まで IF1.0 以上を維持している。PAWEES 会長は 3 カ国が 2 年ごとに持ち回り、現在は渡邊 紹裕 (京都大学) 氏が会長である。一方、PAWEES 事務局は農業農村工学会内に 2011 年以降固定されている。

PWE 誌の刊行以外に、PAWEES が担う主要な機能に国際研究集会の開催がある。また、国際研究集会の開催期間中に、PAWEES 国際賞、PWE 論文賞、PWE レビュー賞の授与式が開催されている。国際研究集会は毎年 1 回、韓国農業工学会、台湾農業工学会、農業農村工学会が持ち回りで主催者となっているが、近年は農業農村工学会が主催する年はコアメンバー国以外で開催するように務めている (表 1 参照)。

表 1 PAWEES 研究集会開催国と都市

年	国	都市	年	国	都市
2003	日本	京都	2011	台湾	台北
2004	韓国	安山	2012	タイ	ノタブリ
2005	日本	京都	2013	韓国	晋州
2005	台湾	台北	2014	台湾	高雄
2006	日本	宇都宮	2015	マレーシア	クアラルンプール
2007	韓国	ソウル	2016	韓国	太田
2008	台湾	台北	2017	台湾	
2009	インドネシア	ボゴール	2018	日本	奈良
2010	韓国	済州			

*PAWEES 事務局長: Secretary General of PAWEES, 近畿大学農学部: School of Agriculture, Kindai University

キーワード: PAWEES, 水田・水環境工学

2. 最近の活動

2015年4月には第7回世界水フォーラムが韓国で開催されたが、PAWEESはテーマ「食料のための水」の中で「農業と環境のための水質管理」についてのセッションをIFPRIと共催した。また、2015年8月にマレーシアで開催された研究集会では、メインテーマを「持続的水・環境管理への解決策」とし各国から計130名が参加し研究発表がなされた。2016年は韓国太田市において研究集会が開催される。ここでは、「水-エネルギー-食料のネクサスでの持続的水田水管理」をメインテーマとし、「水と食料の関係と農業水管理」、「より良い水田水管理のためのツールと分析」、「水田水管理と気候変動」などのサブテーマについての研究発表がなされる予定である。さらにICIDアジア地域ワーキンググループとのワークショップの共催も計画している。

3. 今後の展望

国際研究集会は、2017年は台湾、2018年には日本の奈良県でINWEPFとの共催で開催する予定である。久しく日本では開催されてこなかったが、関係各国からの要望もあり、奈良で12年ぶりに開催することとなった。日本のPAWEES関係各位には、開催準備などに協力していただく予定である。

また、近年のPAWEESの活動はPWEと共に進展が見られ認知度もあがってきているが、今後はさらなる飛躍を期待したい。現在、コアメンバー国以外にもインドネシアとの協力体制が構築されており、さらにタイやマレーシアからも研究集会を主催した実績から、協力体制が構築されつつある。

さらに、PAWEESはその対象とする学術分野での成果を研究者間だけではなく、技術者や行政に向けて広く共有していく行動計画を策定することが近年求められている。それを踏まえれば、PAWEESは大学や研究機関の研究者のみならず今後はメンバー国の行政機関や国際援助機関などとの実体のある連携を模索していくことが必要であろう。事実、2016年にはICID、2018年の研究集会ではINWEPFと協力していくように、活動に広がりが出てきている。

一方、アジア地域、さらにはグローバル規模でPAWEESの活動の場を広げて行くには不可欠な財政的基盤を確立することには常に困難が付きまとっている。PWEにおいても、投稿論文数が増加している状況でその管理体制の強化を考えた場合の財政的な負担増にどう対処して行くかの積極的な議論が必要であろう。購読者数の増加は、購読料収入のロイヤルティ増加に直結することであり、今後もPWEの積極的な宣伝および知名度向上に務める必要があるだろう。